



こもれびの森の外来種植物

今回はこもれびの森に生育する外来種植物を掲載します。

・日本には外来種植物がはびこり迷惑な植物が沢山あります。(セイタカアワダチソウ・オオブタクサ・オオキンケイギク・アレチウリ)などほんの一例です。外来種植物は観賞用または非意図的に種が(飼料・農産物・その他)何かに混入して導入されたものです。

・外来種植物はその土地の環境に適合して、繁殖力が強いものばかり生き残り問題視され「**外来種植物は強いもの**」と迷惑に思われているのではないのでしょうか？

・逆に日本国外では日本古来の植物が外来種として問題になっている植物も沢山あるそうです(イタドリ、クヅ、スイカズラ、アケビ)などほんの一例ですが厄介物になっているそうです。

・今回はコブシの森に勢力を増し広がっている「トキワツユクサ」を掲載します。

あちらこちらで見られますが、植生調査地の散策路でも見ることが出来ます。(田崎)



トキワツユクサの群生

トキワツユクサ(常盤露草) ツユクサ科

別名-ノハカタカラクサ(野博多唐草)

南アメリカ原産・常緑多年草・花期-5~7月
茎は地を這うか斜めに立つ、葉は無柄で先のとがった卵形、全縁で波打つ。

花は白色で径 15 mm、がくへん 3、花弁 3、おしべ 6、めしべ 1 よりなり、がくは緑色で花弁より短い。名はツユクサに似て常緑なので「常盤^{ときわ}」の名がつきトキワツユクサと呼ばれる。



トキワツユクサの花

ヤマブキ (バラ科ヤマブキ属)

4月になり、森の中のヤマブキが咲き始めると、「七重八重 花は咲けども 山吹の 実の一つだに なきぞ悲しき」と、口ずさんでしまいますね。

それほど有名なこの歌のとおり、ヤエヤマブキは実を結びません。そして、一般にヤマブキは実を結ばないものと、思っている人が多いようです。

しかし、野生種の子ヤマブキ(一重です)は、一花に5個の果実をつけます。花の後、熟してきます

ので、どうぞ確かめてください。実は落ちやすく、見つけた時には1~4個になっているかもしれせん。





茎は細長く1-2mほど^{そくせい}東生・直立し、葉が落ちた冬の間も緑色を保つので、すぐにそれと分かります。この茎は3~4年で枯れ、次の新しい茎が出てきて世代交代します。小粒ながらのしたたかな木です。この細い茎には白い髓があり、これを昔は灯芯に使用したそうです。

美しい黄金色に輝く花弁は5枚です。丹沢山中の沢沿いに咲き乱れるヤマブキは見事で、一汗かいた山道で、風に揺れるヤマブキに出会うと嬉しくなってしまう。この風に揺れる様子を昔の人は山振と呼び、それが^{やまふり}山吹^{やまぶき}に変化したという説もあります。丹沢を擁する山北町はヤマブキを町の花に指定しています。(鳥飼)

木もれびの森の虫たち7 --- 土壌生物 ---

虫たちの新しい1年が始まります。木もれびの森にも何か新種の虫が誕生しているかもしれませんが・・・多分昨年と同じ面々だと思います。そこで、今年は個々の虫たちのことを詳しく掘り下げてご紹介していきたいと思います。まずは、足元から「土壌生物」についてご紹介します。土壌生物は落ち葉や動物の死体、糞などを食べ、分解し、栄養素を供給し豊かな土づくりに貢献しています。又、土をスポンジ状にすることによって、水を貯えるとともに浄化してくれます。見た目が悪く、気持ち悪い恰好をしているので、忌み嫌われますが、小さい体で黙々と森をきれいにし土づくりをする土壌生物は偉いのです。感謝の気持ちで接していきましょう。(海野)

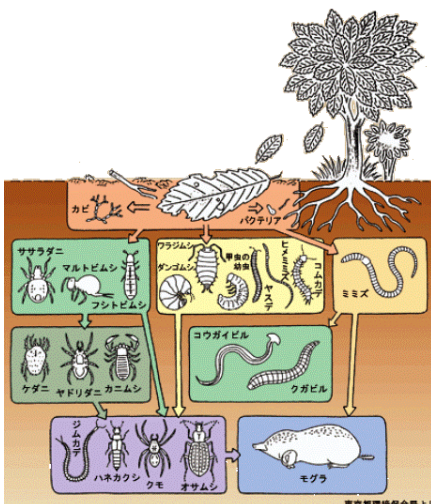
- 特徴 : ①落ち葉の下や土の中の隙間を動くために小さくてスリム
 ②光のない土の中の生活で目が退化、体に色を持たない

大きさ : 0.01mm以下の原生動物やセンチュウ

0.2~2mmのダニ、トビムシ、コムカデ、カニムシ

1cm~数cmのワラジムシ、ミミズ、ムカデ、ヤスデなど

オケラやモグラも大きいですが土壌生物です。



子ども達と観察会で見つけました